

個人質問

32人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

防災・保健福祉

避難所指定シンボルマーク（仮称）の作成

問 避難所を明確に示すため、外壁などにシンボルマーク（案内標識）を設置してはどうか。

答 伝えたいイメージを効果的に表現できる共通のシンボルマークを避難所に設置することで、その所在がわかりやすくなるとともに、市民の避難行動がより迅速に行えることが期待される。

今後、計画的な設置や外国語の表記も検討していく。

戦災資料の展示場所

デジタルミュージアムに

問 なぜ、デジタルミュージアムという結論に至ったのか。

答 交通アクセス、改修の容易性、施設の利活用、コストなどの諸条件を比較検討した。その結果、耐震基準を満たしていること、展示施設としての環境が整っていること、さらに戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継いでいくために多くの子どもたちが来場しやすいなどの理由で、デジタルミュージアム5階の一部を活用することが最もふさわしいという結論に至った。



※2 福祉避難所

小学校等の通常の避難所で生活が困難な人（介護が必要な高齢者や障害者、妊産婦、乳幼児、病人のうち特別の配慮を必要とする人）のための避難所

防災・減災対策の充実

問 地域において安全・安心ネットワークが機能しなければならぬと考えるが、市民への説明・啓発には今後どのように取り組むのか。

答 東日本大震災を機に、市民の防災に対する意識や関心は高くなり、8月に開催された岡山市安全・安心ネットワーク連絡協議会に防災専門部会が設置されるなど、地域による自主的な防災活動への取り組みの機運も高まっている。

市としても、地域による安全マップづくりの説明会に出向くなど、防災活動に関する支援を行うとともに、公民館を地域活動の拠点と位置付け、地域担当職員が自主防災組織立ち上げの相談に対応している。今後も公民館が実施する地域応援人づくり講座でも防災活動をテーマとした講座に重点を置くなど、積極的にかかわりたい。

大震災を教訓とした避難訓練

問 自主的な判断力を磨くことができる訓練の具体的な内容は。

答 想定外の自然災害に対しても、災害に応じて適切な避難行動ができるような判断力と行動力を育てることが重要である。学校では、一人一人の判断で行動する訓練や、消防署職員から災害に応じた対応や避難のポイントを話してもらった上で、実例をもとに実践的な訓練等が必要と考えている。

また、家庭に居るときに災害が起きた場合を想定し、自分にできる減災活動や、一時避難場所をそれぞれの家庭で確認するなど、まずは自分の身を守ることを最優先に避難する心構えを育てていくことも必要と考えている。

福祉避難所の確保

問 ふれあいセンターの福祉避難所指定はいつになるのか。

答 障害者に対しては、避難所がバリアフリーであるだけでなく、「自分は独りぼっち」という気持ちにさせない取り組みが必要である。現在、ふれあいセンター5館を福祉避難所として指定することを目指し、ふれあい公社と協議を行っている。

今後、関係部署と調整を行い、できるだけ早く結論を出したい。

子宮頸がん等ワクチン

接種を促進

問 新ワクチン（ガーダシル）は助成事業の対象となるのか。

答 平成23年9月15日から、国が新たな子宮頸がんワクチンとしてガーダシルワクチンを対象とした。本市でも23年度は、中学1年生から高校2年生までを助成の対象とする。ただし、高校2年生は9月中に第1回目を接種、高校1年生は年度内に3回の接種を終える必要があるため、高校1、2年生全員に直接通知するとともに、市ホームページ等による広報など、より一層の啓発に努めていきたい。

保健・医療・福祉の連携

問 保健・医療・福祉のネットワーク構築の現状と将来の方向は。

答 予防、診療から介護まで切

※3 ガーダシルワクチン

ヒトパピローマウイルス（HPV）の中で4つの型の感染を予防する4価HPVワクチン。9歳以上の女性において、子宮頸がんだけでなく、幅広くHPV疾患を予防する

さとう人海の個人質問と当局の答弁です。